

令和5年度 「はじめての放射線リスクコミュニケーション」セミナー開催案内

リスクコミュニケーションは、ファシリテーター（進行）、インタープリター（解説）といった人達と共同で円滑に進めることができるとされています。本セミナーは、放射線ならびに放射線リスクコミュニケーションを理解していただき、放射線リスクコミュニケーションにかかわる人材を育てること、また、放射線リスクコミュニケーションを通して放射線についての知識を深めることを目的とします。

本セミナーは、放射線リスクコミュニケーションにはじめて触れる方でもイメージを持ってもらえるようなプログラムになっています。是非この機会に放射線リスクコミュニケーションに触れてみてください。

●セミナー概要：

1. 開催日時	令和5年8月18日（金）10:00～16:20
2. 場所	Web 開催（Zoom） ※参加予定者には後日 Zoom の案内をいたします。
3. プログラム	下記参照
4. 募集人数	20名程度 ※先着順にて定員に達し次第締め切りとさせていただきます
5. 参加費	無料
6. 申し込み期間	8月4日（金）17時まで（これ以降も相談可能です）
7. 申し込み方法	申し込み期間内に下記ウェブサイトのページから申し込み手続きを行ってください。  URL: https://forms.office.com/r/tqpRpRbFrW ※申込み受付完了後に指定のメールアドレスに確認メールをお送りします。お申し込み1週間以内に確認メールが届かない場合は下記の問い合わせ先までご連絡ください。受講の可否についてはメールでのご連絡を予定しております。
8. 留意事項	セミナーではオンラインによる演習がありますので、カメラとマイクを使用できる環境で受講して下さい。また、セミナー開催前に講義動画を視聴していただきます。
9. 問い合わせ先	【問い合わせ先】総務グループ 担当：桑田 〒036-8564 青森県弘前市本町66-1 弘前大学大学院保健学研究科 TEL：0172-39-5518 E-mail： kuwata@hirosaki-u.ac.jp

●プログラム 8月18日(金)

時間	内容・講師
10:00~10:05	開会の挨拶
10:05~10:15	セミナー前アンケート
10:15~11:55 (100分)	「空間線量を測定しながらリスクの軽減を踏まえて日常生活を工夫する演習 ～日常生活 with risk MAP～」 弘前大学大学院保健学研究科 放射線技術科学領域 対馬 恵
	～昼休憩～
12:40~14:20 (100分)	「バーチャル家族ロールプレイを用いた演習」 弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 田中 真
	～休憩～
14:30~15:40 (70分)	「原子力災害被災地における放射線リスクコミュニケーション事例への対応演習」 北海道科学大学 保健医療学部 診療放射線学科 小倉 巧也 弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 工藤 ひろみ
	～休憩～
15:50~16:15 (25分)	まとめおよびセミナー後アンケート
16:15~16:20	閉会の挨拶

●プログラム概要

講義、演習は以下のような目標や内容を含んで構成されます。

なお、講義はセミナー開催前までに動画を視聴していただきます。開催当日は演習を実施します。

【開催日前までに動画視聴】

講義 1: 「リスクコミュニケーターに必要な放射線の基礎」 辻口 貴清 先生

- ・福島第一原子力発電所事故後に実際にあった放射線不安に関する問題を理解する。
- ・放射線にまつわる用語（放射線、放射能、放射性物質など）を正しく理解する。
- ・放射線にまつわる物理単位（Bq、Gy、Sv など）を正しく理解する。
- ・放射線被ばく時の人体影響について概要を説明できる。

講義 2: 「食品中の放射性物質の基準値と現状」 小山内 暢 先生

- ・食品の安全を守る仕組み（リスクアナリシス）について理解する。
- ・“基準値”とは何かを理解する。
- ・食品中の放射性物質に関する基準値の成り立ちと現状を理解する。
- ・食品と放射線について根拠に基づいてわかりやすく説明できる。

講義 3: 「リスクコミュニケーションとは」 田中 真 先生

- ・コミュニケーションの基礎について理解する。
- ・「聴く」事のポイントを理解する。
- ・「伝える」事のポイントを理解する。
- ・リスクに関する正確な情報をもとに関係者間で共有する手法を理解する。

【開催当日】

演習 1: 「空間線量を測定しながらリスクの軽減を踏まえて日常生活を工夫する演習

～日常生活 with risk MAP～」 對馬 恵 先生（100分）

- ・測定器の使用方法を理解し空間線量率を測定することで、周辺環境の放射線量を理解する。
- ・空間線量率のデータを基にして、年間被ばく線量を算出しリスクについて考える。
- ・リスクの軽減のために効果的な日常生活を工夫し、被ばく低減の原則を理解する。

演習 2: 「バーチャル家族ロールプレイを用いた演習」 田中 真 先生（100分）

- ・放射線の数値を“基準値以上か以下か”だけで判断するのではなく、放射線リスクの認知の多様性を理解する。
- ・その多様性は、個人の受けとめ方だけではなく、家族内の役割、立場、所属する組織、職業、地域社会での関係性等、様々なものに影響を受けて変化することを理解する。
- ・放射線リスクについて、言葉で表現し、他者との話し合いによって共有することを体験する。
- ・複数の異なる意見が集約されていく過程に参加することで、放射線リスクコミュニケーターの役割について考えることができる。

演習 3: 「原子力災害被災地における放射線リスクコミュニケーション事例への対応演習」

小倉 巧也 先生、工藤ひろみ 先生（70分）

- ・放射線リスクコミュニケーターは、ステークホルダーの放射線リスク認知に応じ、対象に合わせた対応が必要であることを理解する。
- ・原子力災害被災地住民を対象とした放射線リスクコミュニケーションの実際を知り、その事例への対応方法について考えることができる。
- ・演習活動を通して、放射線リスクコミュニケーターに必要な技能・姿勢を理解し、実践に結びつけることができる。
- ・演習活動を振り返り、今後自身が放射線リスクコミュニケーションを実施するにあたり、必要な知識・技能および課題について考えることができる。